

茨木保健所運営協議会開催結果報告書

令和8年度 第1回	日 時	令和8年7月6日(月)	出席者	委員 23名	協 議 会 役 員 名	会長	上野 豊
	場 所	茨木保健所 5階 大会議室		職員 18名		副会長	山内 榮樹
傍聴者 0名			副会長	—			
議 事	議事の要点		委員の意見	保健所の回答			付記
大阪府茨木保健所の 事業概要について	茨木保健所の主要事業と概要説明		神経難病について、介護職に対する研修は現在も行っているのか。	現在も、コミュニケーション支援の研修、ケアマネ等関係機関にコミュニケーション支援や機器の導入のタイミングなどを実施している。			
			ギャンブル依存症について、保健所の取組や今後の取組、市町村としてどのように取り組んでいけるかを教えていただきたい。	府全体で取り組んでいる。保健所の役割は個別相談。 背景には生きづらさがある。薬を飲めばなおるものではなく、社会全体で取り組むべき課題。ソーシャルウェルビーイングが満たされないと解決できない。基礎自治体である市町村と連携しながら取り組んでいきたい。			
			HTLV-Ⅰについて、男女別の傾向や、血液検査の後、何かフォローアップされているのかなど、詳しく教えていただきたい。	家族で陽性者がいる等、検査対象には条件がある。 検査で陽性がわかったとしてもすぐに治療となる訳ではなく、説明をした時点で電話相談が終わる方もいる。昨年度検査を受けた方は陽性でなかったため、特に医療機関の紹介等はしていない。 (会議終了後) 男女別の質問に対し、相談件数が少ないが、男女別では、女性が多い。			
			死因では、心疾患が増加傾向だが、詳細な内訳までわかるか。	保健所において詳細には把握していない。			

医薬品の適正使用について	医薬品の適正使用についてを説明	医薬品の適正使用に法改正があり、学校薬剤師として、小中高において薬物乱用防止教育を実施している。 児童・生徒にとっては通算1回の教育であり、今後は継続的に、体系的に行いたい。 薬物乱用のゲートキーパーの役割を担いながら協力できればと考える。		
		薬物乱用の意思をもった人は、本当のことを言ってくれない。マイナ保険証のデータからは、複数受診の形跡がある方がいる。こういう方々を社保や国保でチェックいただける形づくりをしていただきたい。		
HIV/エイズ・梅毒の最近の傾向と大阪府の取組	HIV/エイズ・梅毒の最近の傾向と大阪府の取組について説明	意見なし		